

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 7月号 (NO39)

2013年7月10日(水) 発行(毎月10日)

【農暦】猛暑で、大豆などの発芽が心配!

○畑は乾燥したまま梅雨が明け、今日(10日)で4日連続の猛暑日が続いている。5日が播き時と聞いていた黒豆を、雷の雨を期待しながらやっと蒔くことができた。除草の手間を少しでも減らそうと F さんにマルチ張り機械での助けを得てマルチを張った。そこに播種した。4日にトラクター耕起、5日はマルチ張り後に、黒豆、黒小豆、金時の播種、それに時期ズラシの言い訳をしながら、大幅に遅いトマト、茄子、カボチャの追加の定植を行った。

暑いので腕カバーを外した途端にブヨの洗礼を受けた。5か所も腫れ上がっていた。6日の小豆の播種で作業を終えた。7日以降は猛暑で熱中症を心配しながら朝や夕方にジャガイモ掘りやブルーベリーの収穫、草払い機での除草などを行っている。6月末には想像できない気候になっている。急な猛暑は極端に暑い。大豆などの発芽が心配である。

○先月の27日からは、柏の家の水回り2期目の改修工事が始まり、水道管の腐食の状況の立会や説明を受けたりする。家の内も外も機材や廃機材に溢れなどで落ち着かない。夕食を済ませ一段落したところで本を読んでいるとお世話になった常陸大田の K さんがテレビに出ているよと呼ばれた。“金スマのひとり農業”の番組であった。既に K さんは出ていなく見られなかったが、中井正広、安住アナ、大竹しのぶ、秋野暢子などが田植えや野菜などを収穫し、その材料使って料理を作って食べているところが映しだされていた。収穫されていた野菜などは、^{かつ}嘗て私が、栽培していたものが、いろいろあって懐かしいものがあった、最後まで観てしまった。アイスプラントや紅アンデスなどは昨年栽培していた。黒米、赤米は K さんの所で^か糲すりをして貰った事も思い出された。私の、今の畑と今の気持ちとは大分違って来てしまったことを、この番組で想い知る事になった。だが、諦めとか、頑張るぞとは違った、これから何が出来るかを改めて考えた。いずれにしても農がテーマや話題になるのは良い事である。

○2日は半夏生^{はんげしょう}で田植えを終わらせる、農事の節目とされ休息をとる日、とあるが、キヌ



＜直売所付き市民農園＞市民農園の角にある直売所には“とりたて野菜”の看板がある。新しい農業の形態か？新松戸駅のホームから(反対側は繁華街) 18日撮影

サヤ、スナックエンドウの片付け、黒豆、小豆の播種など、草刈り継続などが残る。遅れ農作業では節目もない。改修工事の対応も重なって、後追い農作業は確定である。

○最初の文章以外は 7 月初めに書いたものである。読み返して見て数日で取り巻く環境は大きく変わっているのが判る。気候の変化も劇的である。自分の置かれた状況の変化にもビックリする。農事の節目の半夏生は過ぎているし、やり残しの農作業は多いが、猛暑を避けて、少しの間、休息の日にしたい。

【楽農】 トマト、シシトウ、茄子、キュウリなどの収穫が！

<ハウス> ; 温床の片付け*、草取り*

<畑 A> ; スナックエンドウの片付け、ジャガイモとブルーベリー収穫、僅かながら出荷。

<畑 B> ; ニンニクの収穫*、土楽小屋の軒下に吊るす*。収穫後トラクター耕起。

黒豆、黒小豆、小豆、金時の播種、トマト、カボチャ、白茄子の追加定植。

*印はグリーンジムの作業。

*黒小豆は水戸自然農の O さんから譲って頂いたもの。

【楽市】 イベント交流・直売など

○グリーンジム本戸倶楽部（ピッコロファーム主催、20-21 日）

・雨などで 3 カ月振りの農作業はニンニクの収穫と温床の片付けなど。

懇親会は大阪の M さんとネット交流した。映像トラブルがあったが十分交流出来た。

○OOB 会と植物 LABO の見学（18 日）

・元会社の OOB 会に参加。OOB 会の 1 人が開いている碁会所と同じビルにあった植物 LABO の見学をさせて貰った。（3 頁の写真）。

○その他；

・家の改修工事（27—30 日）と愛猫の火葬（3 日）などと慌しかった。町亜聖さんの講演会（7 日）に参加など

【つぶやき=Tweet】 “晴耕雨読” ではなかったが！

○冒頭の農暦でも触れたが、家の改修工事のため 4 日間は、まるまる家の中に居た。チョットした拷問とまで言わないまでもじっとしているのが好きでない私にはストレスである。この間に「仏の発見」五木寛之と梅原猛の対話（集）を読み終えた。梅雨時である事を思うと“晴耕雨読”で雨の中での読書という時間もあっても良いなと思ったが、雨は降らなかった。雨の中の工事を考えると幸いであった。雨読などとは不謹慎である。五木寛之の本は最近では親鸞の上下を読んだ。梅原猛の書物は、会社現役時に会社関連の図書と共に雑誌の仏教や歴史上の人物など特集されたものの中でよく読んだ。興味を持ち何冊か購入したものの“ツンドクショ”に今だなっている。この「仏の発見」には、歴史上の人物だけでなく、いろいろな人の事が語られ興味深く読んだ。少し前に、本の話ラジオで聞き

読んだ川端康成の「眠れる美女」も出て来た。この本の評価などを三島由紀夫が解説で書いている。仏教を採り入れた、聖徳太子の事も書かれていた。歴史的評価を変更しなくてはならない様なことも言及していた。三島由紀夫の事も書かれていた。ユニークな題名が興味を引き「三島由紀夫レター教室」を「仏の発見」の次に、読み始めている。“肉体的な愛の申し込み”などと面白い手紙のタイトルが目次になっていた。代筆の依頼の手紙もあった。十代の頃、頼まれてラブレターの代筆した事などが思い出された。相手が見つからないが、手紙を書く衝動に駆られた。手紙が届いた折にはご寛容な受取りを願いたい。三島由紀夫と川端康成の親交は有名であるが、この二人のイメージから想像できない2冊の本を図らずも読むことになった。ストレス解消以上の良い時間を持つことが出来た。続けて、読書は楽しみたいと思う。

○3日は愛猫の“アン”が亡くなり火葬した。最後3日間は付ききりの世話をしていた。家族と同様の感情の交流があり、19歳(20歳直前)と高齢で、人間で言うと100歳位になると云うので天寿を全うした。捨て猫だった“アン”である。“家に飼われて幸福だったのでは”と云うと“普通だよ”と返答されてしまった。19年も一緒にいると言葉は通じなくても、嫌だ、いい、何か欲しい、が、行動や仕草で判る。家族それぞれとの、好き嫌いの度合い、信頼関係の深浅も決まり読みとれた。言葉や文字など交流手段を持った人間同士の交流と遜色がない様に思える。裏切りや陰口などの悪意が入らない。愛犬、愛猫との日々は特別なものがあるようだ。疎い私でも感じるものがある。3匹目の捨て猫の“ムギ”は“アン”の不在に不安な様子?で元気がない。だが“アン”の空白を埋める存在になるのだと思う。

○前回、チョット触れたが、人生の質(品質)は個性差もある。好きな事、夢中になれる事、瀬戸内寂聴が云う“トキメキ”など、一期一会ではないが人との関わり合いのあり方が人生の質を決めるだと思ふ。先日、町亜聖さんの「いま、伝えたい 十年介護で学んだこと」の講演を聴いた。関わり方次第で、人生の質を落とす事でも逆に上げる事が出来る。と云う好例を聴けた。人生の質(品質)を考える一例かもしれない。楽しいことは中々書けない。

【後記】真っ赤トマト、大きな汗、冷たいビール、この季節を楽しみましょう。

笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



<植物 LABO>野菜キットには農水省補助金事業; H24「緑と水の環境技術革命プロジェクト」とあった。植物工場の管理技術者用の講座を開いている。農工商の新しい農業の模索の現場か? 18日撮影

発行者; Kogure農場・小暮虎雄

住所; 笠間市本戸4201-10

携帯電話; 090-9333-4135

メール; torao-k@nifty.ne.jp

HP; <http://homepage3.nifty.com/toragigi/>